

「統合データベースプロジェクト」 平成22年度年間スケジュールと平成21年度活動状況

平成22年4月26日

ライフサイエンス統合データベースセンター(DBCLS)
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構(ROIS)

統合データベースプロジェクトH22年間スケジュール

	研究運営委員会	作業部会分科会	行事予定	その他
4月	第10回研究運営委員会(4/26)		AJACS講習会(年6回程度)	成果目標提出(文書)
5月		第4回作業部会分科会		
6月			脂質生化学会出展・ ランチョンセミナー(6/14, 15) 蛋白質科学会出展(6/16-18)	進捗状況報告(文書)
7月				
8月				
9月			BioJapan2010出展(9/29-10/1)	進捗状況報告(文書) BioHackathon2010 フォローアップミーティング
10月	第11回研究運営委員会	第5回作業部会分科会	プロジェクトシンポジウム(10/5) 生物工学会(10/27-29) 人類遺伝学会(10/27-30)	ユーザ評価実施
11月				
12月			BMB2010出展(12/7-10)	進捗状況報告(文書)
1月				
2月	第12回研究運営委員会	第6回作業部会分科会		
3月				

研究運営委員会、同作業部会等の活動(H21年度)

<研究運営委員会>

研究運営委員会拡大懇談会(平成21年4月13日)

第七回研究運営委員会(平成21年6月25日)

第八回研究運営委員会(書面、平成21年10月)

第九回研究運営委員会(平成22年1月25日)

平成21年度の計画、プロジェクトの進捗状況、平成23年度以降の体制をベースにした今後の進め方、ヒトゲノム多型データの共有方針等に関して討議

<作業部会分科会>

第二回研究運営委員会作業部会分科会(平成20年度成果と平成21年度実施計画について)

－医学・化合物・糖鎖関係(平成21年5月20日)

－遺伝研、JST、中核機関の参画機関(基盤技術関係)(平成21年5月25日)

－立体構造・植物関係機関(平成21年5月29日)、

－人材育成(平成21年5月27日)

第三回研究運営委員会作業部会分科会(平成22年度業務計画について)

－医学・化合物・糖鎖関係(平成22年1月22日)

－遺伝研、JST、中核機関の参画機関(基盤技術関係)(平成22年1月29日)

－立体構造・植物関係機関、人材育成(平成22年2月2日)

<その他> 文書による進捗管理(年4回)

シンポジウムの開催 (H21年度)

<「データベースが拓くこれからのライフサイエンス」>

- ・平成21年6月12日、東京大学本郷キャンパス浅野地区内武田ホールにて開催
- ・成果発表の位置づけと、データベースを取り巻く様々なコミュニティメンバーが一堂に会する機会として
- ・講演7件、パネル討論、ポスター発表(プロジェクト内外問わず募集)85件
- ・参加者393名
- ・後日、ポスターPDFの提出を依頼、ウェブサイトで公開 (<https://symposium.lifesciencedb.jp/2009/>)



ポスターと会場の様子

<「科学における情報の上手な権利化と共有化」>

- ・平成21年10月5日、東京大学本郷キャンパス弥生地区内弥生講堂にて開催
- ・データベースの受入・公開にともなう著作権問題の検討
- ・クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの創始者、国内の著作権法関係者、欧州での動向に詳しい関係者の講演など
- ・参加者257名、ライフサイエンス関係者以外に法学や出版関係者
- ・講演の内容は動画としてウェブサイトで公開 (<http://symposium.lifesciencedb.jp/IPDS/>)



シンポジウムウェブサイトと動画配信

学会等における広報活動(H21年度)

＜ワークショップやフォーラムの企画・運営＞

日本分子生物学会[12月]

＜ブースの出展＞

BioExpo[7月]

セルロース学会[7月]

脂質生化学会[7月]

日本癌学会[9月]

日本生化学会[10月]

日本生物物理学会[10月]

日本分子生物学会[12月]

日本農芸化学会[3月]

＜ランチョンセミナーの開催＞

日本生物物理学会[10月]

日本農芸化学会[3月]

これらの広報活動の告知等も含め、ウェブサイトやTwitterにおいてニュース配信を実施



ブースの実施例



- ・統合DBプロジェクトのサービスを紹介した総合パンフレットを配布(合計>4300部)

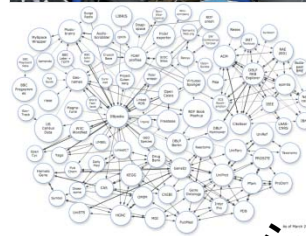
- ・アンケートの実施により、
 - サービス改善のための情報を取得
 - 合計132名の新規ユーザ評価者を確保



ランチョンセミナー広告

BioHackathon2010の開催

- ・平成22年2月8日、お台場産総研CBRCにてシンポジウム(講演11件)を開催。
- ・平成22年2月9～12日、DBCLSにて開発会議を開催。
- ・参加者:国内26名、海外32名。
セマンティックweb研究者からデータプロバイダ、サービスプロバイダ、サイバーインフラストラクチャ開発者が含まれる。
- ・目的:セマンティックweb技術を活用したLinked Data 型のライフサイエンスのデータ統合への展望を参加者で議論し、共有する。
- ・成果:
 - ーデータ/サービスプロバイダーの実務者レベルでの合意形成。
 - ーRDFを利用するときの有用なツールやテキストの作成。
 - ーデータ統合後のデータ可視化などの萌芽的取組み。
 - ーセマンティックweb技術は統合検索の実現のためのデータ統合技術として有望であると結論。
- ・ホームページ: <http://hackathon3.dbcls.jp>



シンポジウム



開発会議

勉強会・講習会－AJACS－の開催（21年度）

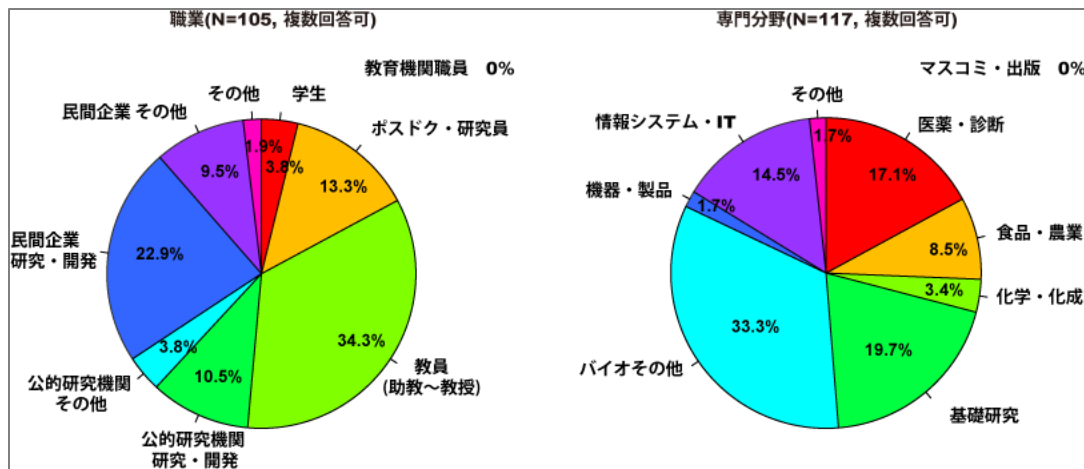
統合DBプロジェクトの普及のために、実際にインターネットにつながった端末を前にしてハンズオンで行う初心者向けの統合データベース講習会や中級者以上向けのNucleic Acids Research誌DB特集号およびウェブサーバ特集号を俯瞰する統合データベース勉強会、及びその他講演会を実施

日時	場所	参加者
〈講習会〉		
2009/4/17	DBCLS	30名
2009/5/15	日本大学生物資源科学部	24名
2009/7/10	基生研	17名
2009/9/7-8	北海道大学	20名+11名
2009/10/16	長浜バイオ大学	43名
2009/11/6	大阪府立大学りんくうキャンパス	33名
2010/1/18-19	久留米ビジネスプラザ	20名+12名
〈講演会・勉強会〉		
2009/10/16	長浜バイオ大学	NA
2009/11/9	東京農大	NA
2009/11/25	DBCLS	11名
2009/12/4	静岡県立大学	NA
2010/3/10	酒類総合研究所	27名
2010/3/19	DBCLS	30名+80名



H20年度成果に対するユーザ評価

- 09年9月17日-10月13日
- 評価依頼者数： 291名
- 回答者数： 117名
- 対象サービス： 34種類



今後当プロジェクトで提供すべきサービスについて へのコメント (一部)

* 日本語化や利用者教育に注力していることは評価できますので今後も継続して頂きたいです。

* データベースカタログはどの程度の頻度で更新されているのでしょうか？例えば最近 Entrez に加わった peptidome はまだないようです。このようなカタログはどうしても最新状態を保つことは難しいのでGoogle で検索することになりますが、単なる Google 検索ではたくさんヒットが多すぎるので Google 検索のヒット効率を上げるようなウィザードのようなものがあれば便利かもしれません。

* 「データベース統合化への道のり」で書かれた方法論には賛成しますが、ステップ間での連携がうまく取れていない(それぞれのステップでの特徴やメリットが生かされていない)と思います。下流のステップの目標を達成するには、上流のステップをどのようにすべきかなどの評価が必要と思われます。

* 個々の哲学で収集されたDBの寄せ集めの観がぬぐえないと思います。やむをえないのかもしれませんが、統合することの意味意義をもう一度見直すことが必要ではないでしょうか？利用する側のニーズがあまりにも多様であるので、リクエストが利己的で申し訳ありません。

* 「巨大DB事業として、日本で统一的に動く」には賛成します。その際、議論はあると思いますが、中核とすべきはDDBJであろうと考えます。その上で、「光る小グループの活動」を単なるリンク集とせず、有機的に生かすための统一的な「情報交換」の仕組みが不可欠だと思います。

*** 各機関ご協力ありがとうございました。最終年度は10月頃を予定**